

日本の正月楽しんで

合志国際交流会 留学生に米や餅贈る

異国で勉学に励む留学生に気持ち良く新年を迎えてもらおうと、合志市の「合志国際交流会」が24日、熊本高専熊本キャンパス(同市)の留学生にクリスマスプレゼントを贈った。

同会は1996年に結成。親元を離れた留学生らの相談に乗り、季節行事を通して日本文化を教えるなどして交流を深めてきた。

例年は年末に懇親会、新年に書き初めをしていたが、新型コロナウイルスの影響で中止に。母国に帰れず、正月も学生寮で過ごす留

学生に「少しでも日本の正月を楽しんでほしい」とプレゼントを企画した。

同会の齋藤正昭会長と江田宣子副会長が手書きメッセージ入りの年賀状を添え、市産の米5キロやミカン、切り餅などの食材を7人に贈った。情報通信エレクトロニクス工学科5年のハサン・モハammad・タンウィルさん(24)は「昨年から一度も帰国できず、正月は寮で友人と過ごす予定。交流会の贈り物はいつも思いが込められていてうれしいと喜んだ。(深川杏樹)

新型コロナウイルス



合志国際交流会(右の2人)から贈られた物資を手にする留学生ら(合志市)